

## 1. 国際化関連 (4) 語学力関係

## ④学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組【1ページ以内】

## 【実績及び目標設定】

## 各年度大学が定める時点の数値を記入

	平成25年度 (H26.3.31) <del>(H25.5.1)</del>	平成28年度 (H29.3.31) <del>(H28.5.1)</del>	平成31年度 (H32.3.31) <del>(H31.5.1)</del>	平成35年度 (H36.3.31) <del>(H35.5.1)</del>
外国語力基準	ELA 修了者：IELTS6.5 相当以上を有するもの JLP 修了者：CEFR B2 以上を有するもの			
外国語力基準を満たす学生数 (A)	931 <del>1,108</del> 人	1,171 人	1,257 人	1,428 人
うち学部 (B)	899 <del>1,076</del> 人	1,137 人	1,222 人	1,391 人
うち大学院 (C)	32 人	34 人	35 人	37 人
全学生数 (D)	2,966 人	2,940 人	2,945 人	2,950 人
うち学部 (E)	2,797 人	2,774 人	2,779 人	2,784 人
うち大学院 (F)	169 人	166 人	166 人	166 人
割合 (A/D)	31.4 <del>37.4</del> %	39.8 %	42.7 %	48.4 %
割合 (B/E)	32.1 <del>38.5</del> %	41.0 %	44.0 %	50.0 %
割合 (C/F)	18.9 %	20.5 %	21.1 %	22.3 %

## 【これまでの取組】

学部生向けに提供するリベラルアーツ英語プログラム (ELA) は、英語力向上と併せて、本学で効果的に学ぶための思考力とアカデミックスキルを養うことを目指している。プログラムでは、習熟度別に4つの課程を設け、異なる科目、教材やテストを用い、適切な環境において学生の指導を行っている。この ELA では、GGJの一環として、プログラム修了学生に対する IELTS を用いた ELA の達成度測定を実施し、プログラムの教育効果を検証しており、加えて、2014 年度より、学生のプログラムにおける学修深度の測定を目指し、IELTS Aptis for University (以下「IELTS Aptis」) を用いた分析も開始した。

大学院生に対しては、「研究者のための論文作成法」(英語)を提供し、各学問分野に共通する学術論文の書き方などを学ぶ機会を提供している。

## 【本構想における取組】

## 1. 語学プログラムにおける CEFR を用いた学生の到達目標の明確化

本構想では、日本語も英語も十分とは言えない学生の受け入れも想定している。まず IELTS にも対応しているヨーロッパ共通言語参照枠 (CEFR) を利用して、本学で学ぶための日英両言語の言語運用能力を記述し、受け入れのためのレベル設定に活用すると共に、それぞれの語学プログラムにおける各レベルの学生の到達目標を明確にする。同時に、本学で「世界の言語」とよぶ日英以外の言語についても同様の記述を行い、コース毎の到達レベルを学生が参照できるようにする。

## 2. 多様なニーズに対応した語学プログラムの提供

英語や日本語、「世界の言語」において提供する外国語以外の新たな言語の開講や、現在6時限4単位を基本として開講しているコース以外に3時限2単位のコースを開発し、学生の多様なニーズに対応する。英語に関しては、1年次 ELA に科学に関するトピックを加える他、論文作成に関しては、科学論文を扱うセッションも設けることで、リベラルアーツの基礎教育としての基盤を強化する。また、現在 TOEFL 及びプレゼンテーション力向上のためにコースを開講している上級英語を学生のニーズを調査しながらさらに充実させると共に、通常の英語力はあるが、論文作成の力が十分でない学生のための「9月生のためのカレッジ・コンポジション」の充実を図る。

大学院では、選考時に英語運用能力試験の結果を求めている。その最低基準は設けておらず、英語力に若干の不安がある学生もいるので、現在開講している学術論文の書き方のコースを更に充実させ、日英両語を母語としない大学院生のニーズに対応した英語修得のためのコースを開講する。